

最北端「イチゴ産地」を目指したスマート農業の展開

実施主体：猿払村（まちづくり係 電話：01635-2-3131(代表)）

【猿払村の概要】(令和3年1月1日現在)

・人口 2,722人 ・世帯数1,287世帯
・年齢構成 0～14歳 374人 15～64歳 1,705人 65歳以上 643人

取組内容

【最北のイチゴ産地を目指して】

猿払村出身の若者や村外からの移住者が、取り組みたくなるような仕事が減少している中、基幹産業である漁業・酪農とバッティングせず、且つ相乗効果を生むような仕事を作れないか考え、農業に着手することを決定。

新産業創造プロジェクトの開始

廃校のグラウンドにIoTを活用した園芸施設を新設し、若い地域おこし協力隊員3名が「猿払モデル」（猿払村に最適化された施設園芸栽培手法）を構築するため、イチゴ栽培などの調査研究事業を開始！

活用した支援策

北海道：地域づくり総合交付金



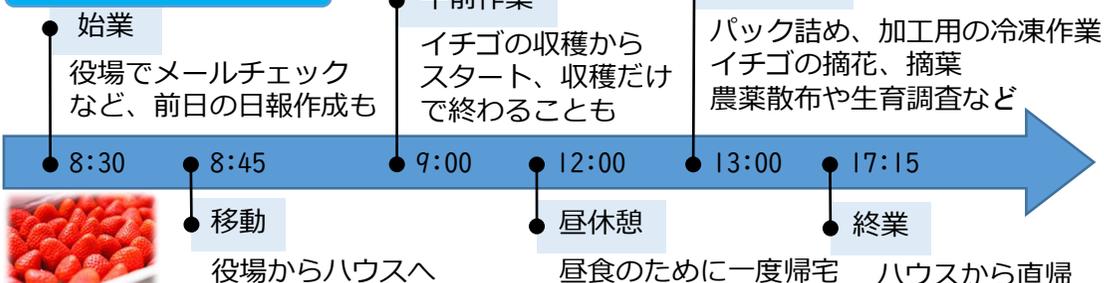
取組のポイント①

収穫など人の手による作業を行いつつ、**温湿度・CO2濃度・日射量などをセンサーから読み取り、灌水・調温・電照などを自動制御するIoTを活用した最先端の装置**で栽培を行っています。

取組のポイント②

地域おこし協力隊は、現場のイチゴ作りに。役場は、外部への広報・PRと役割分担したことで、それぞれが、自分の役割に専念することができ、初年度から好事例が創出できたと考えられます。

○平均的な1日の流れ



実績・効果

○プロジェクト初年度からイチゴの栽培に成功し、地元の保育園児や小学生を招き**収穫体験**や村内業者による**ジャムなどの開発**が進んでいます



○村外企業に原料となるイチゴを販売し、それぞれの**企業で商品化**が行われ、**期間限定商品**が販売されました。

苦労・課題

- 病気や害虫に苦しめられることが多く、生育管理の更なる徹底が必要。
- 村外への販売については、輸送時間が長くなることから、輸送中の品質維持についても改善が必要。

元気なふるさとづくり研究会委員から

- 意欲的な協力隊を受け入れる自治体と住民の関わりが大切なことを示唆している。
- 付加価値をどう高めるかが、重要なポイント**であると思うので、加工業者との情報交換、意見交換をやっていただきたい。

プレゼン者から一言



猿払村
地域おこし
協力隊
塚田 治幸 氏

「誰もが知っている
猿払産イチゴ」が
実現できるように
頑張ります。